環境経営レポート

活動期間 （ 2023年8月～2024年7月 ）

豊國車輌 株式会社

2025年6月24日発行

年 月 日改訂

≪　目次　≫

1.組織の概要・・・ 2P

2.認証・登録の対象範囲、レポートの対象期間及び発行日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2P

3.実施体制・・ 3P

4.環境経営方針・・・ 4P

5.環境経営目標（次年度含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5P

6.環境経営目標の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6P

7.環境経営計画及び、計画に基づき実施した取組内容・・・・・・ 7P ～ 8P

8.環境経営の取り組み結果とその評価、次年度の取組内容・・ 9P ～ 10P

9.環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟などの有無・・11P

10.代表者による全体評価と見直し・指示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12P

1. 組織の概要

1)代表者　：代表取締役社長　仲間　健次

2)事業者名　：豊國車輌　株式会社　（本社・本社工場）
タダノ中部部品センター
北駐車場
西駐車場

3)所在地　：愛知県名古屋市南区星崎1丁目285番地　（本社・本社工場）
愛知県名古屋市南区南野3丁目216番地　（タダノ中部部品センター）
愛知県名古屋市南区星崎1丁目224番地（北駐車場）
愛知県名古屋市南区南野3丁目198番地（西駐車場）

4)会社概要　：創立年月日　1967年12月21日　（本社）
創立年月日　2011年10月1日　（タダノ中部部品センター）

5)事業規模　：2022年7月末時点
資本金　15百万円
売上高　1047百万円
従業員数　31名
総床面積　5024.7㎡

6)事業内容　：建設機械の検査・車検・修理・メンテナンス及び販売
自動車・トラックの車検・整備
部品の倉庫管理及び発送業務

7)環境管理責任者及び担当者の連絡先
：環境管理責任者　篠辺　大十
：　電話：052-821-1148　FAX：052-822-2771
Email：sasanabe-y@houkoku-s.co.jp
担当者　松永　一路
電話：052-693-9011　FAX：052-693-9022
Email：kazumichi.matsunaga@tadano.com

8)事業年度　：8月1日～7月31日

2. 認証・登録の対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

1)組織　：本社・本社工場，タダノ中部部品センター，北駐車場，西駐車場
：※2025年8月、岡崎工場活動開始予定

2)活動　：上記事業内容と同じ

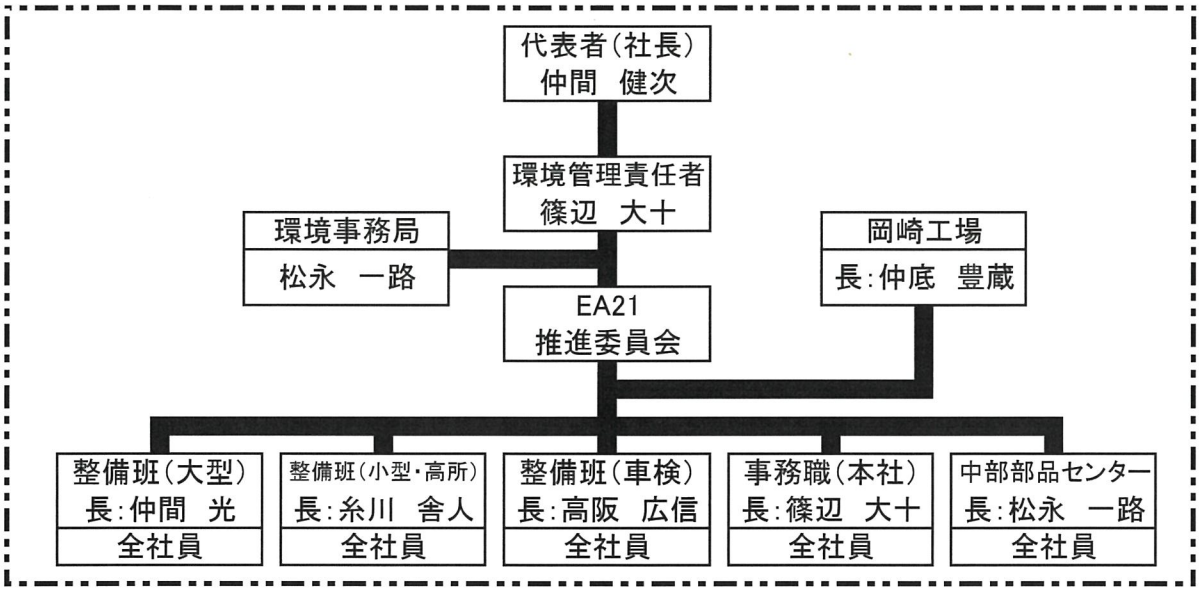
3)レポートの対象期間
：2023年8月～2024年7月
次回は2024年8月～2025年7月を活動期間として2025年12月に作成予定。

4)発行日　：2025年6月24日

5)改訂日　：－

3. 実施体制

1.実施体制図



2.役割と責任・権限

役割	責任　・　権限
代表者(社長)	・環境経営の統括責任者 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・経営資源(人員・設備・費用)の準備 ・環境経営方針の策定 ・環境管理責任者を任命 ・実施体制の構築 ・代表者による全体の評価と見直し・指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築・運用・維持 ・環境経営目標・環境経営計画の承認 ・活動の管理状況(実施状況と結果)を代表者へ報告 ・全社員への周知、教育と訓練 ・環境経営レポートの作成責任者
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営のデータ収集と実績まとめ ・環境関連法規等取りまとめと遵守状況のチェック ・環境管理文書・記録の作成と保管 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会 班長 事務職長 中部部品センター長	・環境経営システムの運用(自部門内・・・以下同じ) ・従業員への環境経営方針の周知 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・教育・訓練実施、記録の作成 ・問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の重要性を自覚し、環境経営計画に基づき実施 ・自分の役割を理解し、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境経営方針

＜ 基本理念 ＞

豊國車輌(株)は、建設用クレーン・高所作業車及び輸送用車輌の整備・取扱いの事業活動を通じて感動サービスを提供し住み良い社会の実現に貢献するという経営理念のもと、低炭素社会に向けたヒートアイランド現象・地球温暖化対策など環境保全の啓発を行い、近隣地域社会に根付いた環境活動を全員で取り組んでまいります。

＜ 基本方針 ＞

1 環境経営の継続的改善を誓約します。

2 当社が適用を受ける環境関連法規等を遵守します。

3 自社における二酸化炭素排出量削減を推進します。
（電力、ガソリン、軽油、灯油の使用削減による二酸化炭素排出量の低減）

4 水使用量の削減を推進します。

5 廃棄物の削減・リサイクルを推進します。

6 化学物質使用量の削減を推進します。

7 グリーン購入を推進します。

8 全社員への研修、教育活動を体系的に実施します。

9 自社の取り扱う製品の環境配慮型特性に関する情報を収集し、その普及促進に努めます。

制定日 2013年8月1日
改定日 2020年4月17日
豊國車輌株式会社
代表取締役 社長
仲間健次

5. 環境経営目標（次年度含む）

・ 目標の設定に当たっては、負荷実績で大きく変動があった2020年度を基準年とする。
（ 理由 ： 2020年度／コロナ禍の安全対策で電気の利用方法に大きな変動があった。 ）

※ 基準年 ： 2020年度：2020年8月1日～2021年7月31日
・ 基準年より各項目2%ずつ改善していくことを目標とする。

項目			単位	＜ 実績 ＞ 2020年度 ＜基準年＞	＜ 目標 ＞ 2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量削減								
	内訳	総排出量	($kg-CO_2$)	77,314	76,541	75,768	74,995	74,245
		購入電力	kWh	78,242	77,460	76,677	75,895	75,136
		灯油	L	3,385	3,351	3,317	3,283	3,250
		液化石油ガス(LPG)	kg	100	99	98	97	96
		ガソリン	L	9,411	9,317	9,222	9,128	9,037
		軽油	L	4,780	4,733	4,685	4,637	4,591
水使用量の削減								
	水使用量		㎥	613	607	601	595	589
廃棄物の排出量の削減								
	一般廃棄物	（ 総排出量 ）	kg	2,400	2,376	2,352	2,328	2,305
	産業廃棄物	（ 総排出量 ）	kg	71,006	70,296	69,586	68,876	68,188
化学物質使用量の把握と適正管理								
	物質名	トルエン	kg	207.9	205.8	203.7	201.6	199.6
		キシレン	kg	39.5	39.1	38.7	38.3	37.9
		エチルベンゼン	kg	25.8	25.5	25.3	25.0	24.7
グリーン購入			%	51.4%	51.9%	52.4%	52.9%	53.5%
環境配慮型製品・サービスの普及促進			件	81	82	83	84	84

※二酸化炭素の排出係数は2023年度の中部電力ﾊﾟﾜｰｸﾞﾘｯﾄ・中部電力ﾐﾗｲｽﾞの数値を使用する。（部署毎の契約が異な
中部電力パワーグリッド：0.433kg-CO2/kWh（基礎排出係数）
中部電力ミライズ：0.406kg-CO2/kWh（基礎排出係数）
※化学物質使用量は、環境活動期間の1年間で使用した化学物質の量を調査。
※グリーン購入：事務用品（アスクルで手配）の総購入金額とそのうちのアスクルでグリーン商品に相当するとしている商品の総購入金額を比率で把握。
※環境配慮型製品・サービスの普及促進は、メーカーの再生品の利用件数を調査。

6. 運用期間の環境経営目標の実績

・運用期間　2023年8月～2024年7月の実績は以下の通りです。

項目			単位	2020年度 2020年8月 ～2021年7月 ＜基準年＞	2023年度 2023年8月 ～2024年7月 ＜目標＞	＜実績＞	目標値との比較	評価
二酸化炭素排出量削減								
	内訳	総排出量	($kg-CO_2$)	77,314	74,995	56,146	74.9%	○
		購入電力	kWh	78,242	75,895	74,922	98.7%	○
		灯油	L	3,385	3,283	3,543	107.9%	×
		液化石油ガス(LPG)	kg	100	97	150	154.6%	×
		ガソリン	L	9,411	9,128	10,244	112.2%	×
		軽油	L	4,780	4,637	3,717	80.2%	○
水使用量の削減								
	水使用量		㎥	613	595	487	81.8%	○
廃棄物の排出量の削減								
	一般廃棄物	（　総排出量　）	kg	2,400	2,328	2,100	90.2%	○
	産業廃棄物	（　総排出量　）	kg	71,006	68,876	44,227	64.2%	○
化学物質使用量の把握と適正管理								
	物質名	トルエン	kg	207.9	201.6	141.7	70.3%	○
		キシレン	kg	39.5	38.3	17.1	44.7%	○
		エチルベンゼン	kg	25.8	25.0	10.6	42.2%	○
グリーン購入			%	51.4%	52.9%	57.4%	108.5%	○
環境配慮型製品・サービスの普及促進			件	81	83	154	185.5%	○

※二酸化炭素の排出係数は2023年度の中部電力ﾊﾟﾜｰｸﾞﾘｯﾄと中部電力ﾐﾗｲｽﾞの数値を使用する。（部署毎の契約が異
中部電力パワーグリッド：0.433kg-CO2/kWh（基礎排出係数）
中部電力ミライズ：0.406kg-CO2/kWh（基礎排出係数）
※化学物質使用量は、環境活動期間の1年間で使用した化学物質の量を調査。
※グリーン購入：事務用品（アスクルで手配）の総購入金額とそのうちのアスクルでグリーン商品に相当するとしている商品の総購入金額を比率で把握。
※環境配慮型製品・サービスの普及促進は、メーカーの再生品の利用件数を調査。

※2023年度は太陽光発電により36,595kWh売電した。（昨年度比：98.7%）
→　間接的ではあるが15,479.69kg-CO2の環境負荷軽減につながり社会貢献に寄与することができた。
→　天候によって発電量は変化するが大きな変動は無い。設備の故障もなく安定して発電できていることが確認できた。

＜　2023年度　＞

設備名：　太陽光発電　※　中部電力パワーグリッドへ売電　⇒　環境負荷軽減（使用ではなく売電なので「－（マイナス）」）として集計
排出係数：　0.423　kg-CO2/kWh　平均単価：　22.9　円/kWh

項目	単位	2023年8月	2023年9月	2023年10月	2023年11月	2023年12月	2024年1月	2024年2月	2024年3月	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	合計	月平均
使用量	kWh	-3,885.00	-3,495.00	-2,766.00	-2,696.00	-1,821.00	-2,154.00	-2,550.00	-2,974.00	-3,174.00	-3,778.00	-4,113.00	-3,189.00	-36,595.00	-3,049.58
料金	円	-87,734	-78,355	-63,894	-62,277	-42,065	-49,757	-58,905	-68,699	-73,319	-87,271	-94,364	-71,794	-838,434	-69,870
CO2排出量	kg-CO2	-1,643.36	-1,478.39	-1,170.02	-1,140.41	-770.28	-911.14	-1,078.65	-1,258.00	-1,342.60	-1,598.09	-1,739.80	-1,348.95	-15,479.69	-1,289.97

＜　2022年度　＞

設備名：　太陽光発電　※　中部電力パワーグリッドへ売電　⇒　環境負荷軽減（使用ではなく売電なので「－（マイナス）」）として集計
排出係数：　0.433　kg-CO2/kWh　平均単価：　23.1　円/kWh

項目	単位	2022年8月	2022年9月	2022年10月	2022年11月	2022年12月	2023年1月	2023年2月	2023年3月	2023年4月	2023年5月	2023年6月	2023年7月	合計	月平均
使用量	kWh	-3,678.00	-3,473.00	-2,597.00	-2,492.00	-1,729.00	-2,365.00	-2,454.00	-3,103.00	-3,776.00	-4,038.00	-3,089.00	-4,266.00	-37,060.00	-3,088.33
料金	円	-84,961	-80,226	-59,990	-57,565	-39,939	-54,631	-56,687	-71,679	-87,225	-93,277	-71,355	-96,766	-854,301	-71,192
CO2排出量	kg-CO2	-1,592.57	-1,503.81	-1,124.50	-1,079.04	-748.66	-1,024.05	-1,062.58	-1,343.60	-1,635.01	-1,748.45	-1,337.54	-1,847.18	-16,046.98	-1,337.25

7. 環境経営計画及び、計画に基づき実施した取組内容

環境負荷	目標	活動項目	2023年度スケジュール 2023年 8月 ～ 2024年 7月	詳細
二酸化炭素排出	2020年度を基準として 2%削減する。	①事務所の空調管理（夏期、冬期）	管理状況ﾁｪｯｸ	※1
		②昼休み時消灯、エアコンOFF実施	管理状況ﾁｪｯｸ	※2
		③事務所照明の間引き、PC省ｴﾈﾓｰﾄﾞ設定	管理状況ﾁｪｯｸ	※3
		④エコドライブの実施	ｴｺﾄﾞﾗｲﾌﾞ実施	※4
		⑤冬期　ストーブの使用方法をルール化	管理状況ﾁｪｯｸ	※5
		⑥太陽光発電によるCO2排出削減への寄与	発電量の把握	※6
廃棄物排出	排出量の削減・再利用促進	①分別の徹底による再利用の促進	分別内容を記載	※7
		②裏紙利用、再利用の促進	裏紙使用促進	※8
水使用量	2020年度を基準として 2%削減する。 油水分離槽の活用徹底	①節水に心がける（手洗い・食器洗い時）	管理状況ﾁｪｯｸ	※9
		②水漏れ対策（洗面所・洗車機ﾎｰｽ）	管理状況ﾁｪｯｸ	※10
		③排水処理の徹底（油水分離槽への排水処理）	管理状況ﾁｪｯｸ	※11
化学物質使用	2020年度を基準として 2%削減する。	①使用量を把握する。 ②在庫管理と使い切りを実施する。	管理状況ﾁｪｯｸ	※12
グリーン調達	2020年度を基準として 毎年2%増加する。	アスクルで購入する事務用品について グリーン商品購入促進する。	管理状況ﾁｪｯｸ	※13
環境配慮型製品・サービスの普及促進	2020年度を基準として 毎年2%増加する。	①メーカー再生品利用促進を行う。 ②環境配慮型製品・サービスの普及促進	管理状況ﾁｪｯｸ	※14

■□■□各担当者と具体的な活動項目・活動効確認方法について　■□■□

＜　詳細　＞

※1：事務所の空調管理について　／　※2：昼休み時消灯、エアコンOFF実施

場所	担当者	夏期	冬期	具体的な活動項目	活動効果確認方法
本事務所（本社）	松田	21℃	26℃	※左記に定めた温度設定を守る。（設定温度のｼｰﾙを貼る） ※昼休憩時、食堂以外は必ず消灯する。 ※同上時、エアコンをOFFにする。 ※暑い時にはｶｰﾃﾝ・ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞを活用。 （冷暖房効率を上げる工夫） ※換気・通気による温度調整をする。 ※明るい時間帯で良く見えれば換気扇のみ。 ※使用後、換気扇・電気を必ず消灯する。	電気料金請求書に記載されている電力消費量を把握。 増減により効果の判定を行う。 （目標：2020年度を基準として毎年2%減少する。）
2F食堂（本社）	松田	21℃	26℃		
部品事務所（本社工場）	小出	20℃	30℃		
北工場事務所（本社工場）	仲間光	23℃	28℃		
東工場事務所（本社工場）	高阪	28℃	26℃		
タダノ中部部品センター	渡邊	26℃	22℃		
トイレ	全員	都度消灯			

※3：事務所の照明の間引き、PC省ｴﾈﾓｰﾄﾞ設定

場所	担当者	実施状況	具体的な活動項目	活動効果確認方法
本事務所（本社）	篠辺	完了	※事務所照明　間引き ※各部署のPCを省ｴﾈﾓｰﾄﾞに設定 ※PC入れ替え時に再度設定 ※照明機器入れ替え時には省エネ商品推奨	同上
2F食堂（本社）		完了		
部品事務所（本社工場）	小出	完了		
北工場事務所（本社工場）	仲間光	完了		
東工場事務所（本社工場）	高阪	完了		
タダノ中部部品センター	渡邊	完了		

※4：エコドライブの実施

エコドライブに関する勉強会を実施。（エコドライブの方法・効果を知る）

勉強会実施日	担当者	対象
研修会時	篠辺　大十	社員全員

⇒　研修会は奇数月の第2　or　第4土曜日に実施

7. 環境経営計画及び、計画に基づき実施した取組内容

※4:エコドライブの意識向上(セルフチェック実施)
研修会時にエコドライブの実施状況をセルフチェックする。(文書「エコドライブ10セルフチェックシート」参照
各項目に対して定性評価(○、△、×)を行い、定期的に全社員の意識向上を図る。

※5:冬期　ストーブの使用方法をルール化
＜ルール＞
休憩時は現場の皆が集まって暖をとる。コロナ対策のためマスク着用を必須とする。
周囲に人が居ない時には種火を消すか最小に設定しておく。
インナーを重ね着して上着も活用して風邪を引かないように注意する。

※6:太陽光発電によるCO_2排出削減への寄与
発電した電気をそのまま自社で使用することが難しいため売電により社会全体のCO_2排出削減への寄与を目指す。
発電量を把握し負荷のチェック表へ反映させる。

※7:分別の徹底による再利用の促進
☆　ゴミの分別

場所	担当	実施状況	具体的な活動内容	活動効果確認方法
北工場(本社工場)　ゴミ箱	吉田(し)	完了	廃棄物を入れるゴミ箱に分類を明記	マニュフェストにて排出量を把握
南工場(本社工場)　ゴミ箱	鈴木	完了		
東工場(本社工場)　ゴミ箱	吉田(け)	完了		
工場北側(本社工場)　コンテナ	山本	完了		
本社南側(本事務所)コンテナ	篠辺	完了		
本社部品課(本社工場)　ゴミ箱	小出	完了		
東工場(本社工場)　事務所	高阪	完了		
本社　事務所	松田	完了		
本社　食堂	松田	完了		
タダノ中部部品センター	渡邉	完了		

※8:裏紙利用、再利用の促進
＜ルール＞
その(1)社内文書のコピーは裏紙を使用して行う。
その(2)メモ用紙は裏紙を4等分してクリップで挟み再利用する。

※9:節水について／※10:水漏れ対策について
＜ルール＞
その(1)手洗い時、手を濯ぐとき以外は水を止める。(流しっぱなしで手を洗わない)
その(2)配管水漏れ・洗車ホース水漏れ時には即修理対応を行い放置しない。

※11:排水処理の徹底(油水分離槽への排水処理)について
北工場の東側、コンテナの横に4槽の油水分離槽がある。洗車をする際にはここにその水が流れていくように
洗車をする場所と水の流れに気をつける。

※12:化学物質使用量の把握について　担当:篠辺
塗料、シンナー、ブレーキオイルなどの量を把握する。その中に、PRTR制度対象物質が含まれているかどうかを
SDSシートを取り寄せて調査する。年間どれだけの使用量なのかを把握し使い切る事により廃棄を少なくする。

※13:グリーン調達／購入について
アスクルで購入する商品の、グリーン商品を意識して購入することを目標として活動する。

※14:環境配慮型製品・サービスの普及促進について
メーカー再生部門の再生品の利用件数を増やすことによりゴミの削減・環境負荷軽減を目指す。
再生品を利用すると廃棄物削減につながり環境負荷を軽減することができる。

・　次年度の環境経営計画は本年度を基準年とし、新たに目標を設定する。

8. 環境経営の取り組み結果とその評価、次年度の取組内容

① 温室効果ガス（二酸化炭素）排出量削減について
CO2総排出量は56,146kgで前年度比10%減少した。
エネルギー消費量が全体で減少傾向にあるためと推察される。
また、本年度より岡崎工場が稼働し、資源使用が分散されていることも全体量の減少となっているため、
やはり本年を基準年度として目標の再設定が必要である。

購入電力は74,922kWhで前年度比1.7%増加した。
気象庁HP　2023年の天候のまとめ（速報値）より、
2023年の日本の年平均気温偏差は+1.34℃（1～11月の期間から算出した速報値）で、
統計を開始した1898年以降、これまで最も高い値だった2020年の+0.65℃を大きく上回り、
最も高い値となる見込みとのこと（令和5年12月22日発表）。
平均気温の上昇により8・9月の電力使用量が増加していることも要因と推察される。
2025年6月より施工された、職場における熱中症対策の強化のための改正労働安全衛生規則の遵守のためにも
今後夏季の電力の削減は難しい。その他の電力消費抑制をより一層取り組む必要がある。

灯油は2,565Lで前年度比28%減少した。
ガソリンは10,244Lで前年度比2%減少した。
軽油は3,717Lで29.4%減少した。
上記3項目についてそれぞれの要因と対策を以下に示す。
・灯油：前年度より購入回数（月別）が減少している。暖冬の影響があると推察される。
・ガソリン：前年度と僅差のため、車検やクレーン検査での代車使用量に変化がない。
・軽油：客先の車輌に給油を行うが、入庫後の路上駐車時間を減少させ、即座に移動させる
　　ことによって、アイドリングの時間を短くしていることも減少の要因と推察される。

上記3項目は整備に大きく関わるので、スチーム洗浄機の使用方法や、アイドリング状態を必要以上に
設けない、など細かい配慮で微減は可能と思われる。

② 水使用量の削減について
水使用量は487Lで前年度比20%減少した。
①項目灯油の使用量が減少したことから、車輌のスチーム洗浄の機会が減少している可能性がある。

構内清掃に関しては、定期的に実施ができていない。実施月を決めて行うことが望ましい。

③ 廃棄物の排出量の削減について
一般廃棄物の総排出量は2,100kgで前年度比で減少している。
今期を排出量の基準とし、今後の動向を追う。

産業廃棄物は44,227kgで前年度比38%減少した。

④ 化学物質使用量の把握と適正管理について
トルエンは、141.68kgで前年度比8%減少。
キシレンは、17.12kgで前年度比68.2%減少。
エチルベンゼンは、10.55kgで60%減少。
塗料資料の大幅な減少は、岡崎工場が稼働し、主に新車架装を行っていることから、
使用量が岡崎工場に移行していることが大きな要因である。
（参考：岡崎工場使用量…トルエン：48.6kg、キシレン：5.47kg、エチルベンゼン：2.55kg）

本年度を基準とし、比較検討していくことと、塗料の化学物質使用量や種類について、改めて
調査する必要がある。

⑤ グリーン購入促進について
購入金額ベースでは57.4%で前年度比50%増加した。
物品購入担当者がグリーン商品を積極的に選んでいること、購入先がグリーン商品を
前面に推し進めていることが大きな要因と推察される。
引き続き事務所にて積極的に選択して購入をすすめたい。

⑥ 環境配慮型製品・サービスの普及促進
再生品使用利用件数が108件で前年度比23%増加した。
前年度に引き続き物価の高騰により、メーカー新品部品の値段が上昇しており、
利用件数が増加した。
前年度同様、再生品利用提案を心掛ける。

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟などの有無

法令等の名称	要求事項	評価
廃棄物処理法 名古屋市産業廃棄物等の適正な処理及び資源化の促進に関する条例	保管の基準の遵守	○
	委託契約書の締結	○
	許可内容の確認	○
	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の発行・適正管理（5年）	○
	前年度の産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出（6月末まで）	○
	定期的に産業廃棄物処理状況の確認（1回/年）	○
特定家庭用機器再商品化法 （家電リサイクル法）	＜テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機＞ リサイクル料金の負担と指定業者への引渡し	－
使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	リサイクル料金の負担と取引業者への引渡し	－
資源の有効な利用の促進に関する法律	＜パソコン、コピー機＞メーカー指定方法破棄	－
騒音規制法、振動規制法、市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例	適正使用（空気圧縮機、送風機） 特定施設の該当可否確認	○
名古屋市下水道条例	定期的清掃	○
水質汚濁防止法	排水適正管理、事故時報告	○
消防法 消防名古屋市火災予防条例	取扱基準の遵守	○
フロン排出抑制法（業務用エアコン）	廃棄時　許可業者への引き渡し　書面管理	○
	3ヶ月に1回以上の簡易点検、記録保存	○
	漏洩時の処置	－

環境関連法規への違反・訴訟はありません。なお、関係当局よりの違反などの指摘は過去3年間ありません。

評価基準：「○」・・・実施あり　「—」・・・実施無し（対象無しを含む）

10. .代表者による全体評価と見直し・指示

＜総括コメント＞

政府は『循環経済を国家戦略に』を副題にした循環型社会形成推進基本計画を2024年8月、閣議決定した。
計画の策定は循環型社会形成推進基本法に定められており、2003年の第一次計画から数えて今回は第五次になる。計画では、2030年度までの数値目標を複数分野で設定した。
計画では、大量生産・大量消費・大量廃棄という一方通行型の経済社会から、効率的に繰り返し資源を有効利用する循環経済への移行が不可欠であるとして、それを国家戦略と位置づけた。
その上で、持続可能な社会づくり・資源環境・地域の循環システム構築・廃棄物管理・国際的な取り組み、の5つに関連する項目を重点分野に設定した。
循環型社会全体に関する10の指標も設定した。
そのうち『資源生産性』は国内総生産（GDP）を天然資源等投入量で割ったもので、1トンの資源からどれだけの価値を生み出すかを示す。目標では、2020年度に1トン当たり46万円だったものを2030年度に同60万円に増加させる。
同様に『１人当たりの天然資源消費量』は11.5トンを11トンに、投入される資源全体に占める循環利用量の割合『入口側の循環利用率』は16％から19％にするなどの目標値が掲げられている。

我社においては、2020年8月“SDGs宣言”を行った。
また、未来に向けて、生産性を上げるべく『健康宣言チャレンジ事業所』として職場の健康づくりに積極的に取り組んだ結果、全国健康保険協会愛知支部より表彰を受けた。
この評価に恥じることないよう『持続可能な開発目標』を加速させる所存である。

世界で、そして日本で起こっている異常気象の課題に対して、それほど日本の中・小規模、企業経営者にとっては関係のない話と捉えられることもあるだろう。
しかし、異常気象を今以上に加速させないように、ビジネス界のルールそのものが静かに変革を始めている。
タダノの商品を取り扱う会社として、サービスビジネスを展開している我々であるとするならば、異常気象の課題はもはや他人事ではないと考える必要がある。

建設用クレーン及び、車体の点検整備を生業として、循環経済を重要な課題と捉えており、エコアクション２１の認証資格に誇りを持ち、資源生産性向上に取り組んでいきたいと考えている。

我社の、環境活動経営をさらに進化させるべく、これからも脱炭素社会に向けた投資を切れ目なく継続的に、CO2削減と地球温暖化防止に貢献していく所存である。